

<p>〔開会の宣告〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、これより令和2年度第10回臨時教育委員会会議を開会いたします。</p>
<p>〔会議の成立〕 遠藤洋路 教育長</p>	<p>本日は、5人の委員が出席しておりますので、この会議は成立しているということになります。</p>
<p>会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、小屋松委員と私とします。</p>	<p>会議録署名委員の指名を行います。会議録署名委員は、会議規則第14条第2項の規定により、小屋松委員と私とします。</p>
<p>日程第1 協議</p>	
<p>・協議 令和3年度（2021年度）使用中学校教科用図書採択について（国語・書写・地図・美術）</p>	
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、協議「令和3年度使用中学校教科用図書の採択」について、事務局より説明をお願いします。</p>
<p>廣瀬泰幸 教育センター副所長</p>	<p>協議についてご説明いたします。令和3年度から中学校で使用する教科書全16種目の採択をお願いします。そのうち、本日は「国語」「書写」「地図」「美術」についてご協議をお願いいたします。 まずは、熊本市教科用図書選定委員長から報告をお願いします。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>まず、「国語」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>〈沖田史佳 研究記録員 説明〉</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。 〈廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明〉</p>
<p>岩本晃代 選定委員長</p>	<p>ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断いたしました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>それでは、国語について協議に入りますが、私から最初に確認したいことがあるんですけど、本市の子供たちの課題を再度スライドで見せてほしいのですが。 今、こういう課題があって、学力的には平均より少し低いという状況であるわけですが、今使っている教科書はどこでしょうか。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>現在使っているのは東京書籍でございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>今、東書を使って、こういう課題があるわけですね。今度また同じ教科書を使って、子どもたちの課題を解決できる見通しがなぜたつのか教えてほしいんですが。</p>

<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>東書を現在使っておりますが、一般や先生方の意見書の中に、同じ東書なんです、「フォントが大きくなったり、色分けなどが多くなったりして見やすくなった。」「挿絵が増え、生徒の理解に役立つものになった。」とあります。また、研究員としても「学びの扉」で、子供たちの日常の言葉のトラブルから学びに入るところが非常に分かりやすいと思いました。沖田指導主事が補足します。</p>
<p>沖田史佳 研究記録員</p>	<p>ご覧のスライドの右側が現行の東書の「学びの扉」のページになっております。会話を中心に、力を付けたいところへ問題意識を喚起させるという工夫がなされているのですが、文字だけの表現で、国語が苦手な生徒の学習意欲を喚起できなかったのではないかとも思われます。本市の生徒の実態が「無回答が多い」という点に着目しまして、国語が苦手な生徒達が、少しでも国語の学習で、自分の意見を書いてみよう、表現してみようというような意識になればと思ったところ、左側のような東書にある漫画という工夫をされているところで新たな工夫が見られていいのではないかなという印象を持ったところです。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>付け加えてもよろしいでしょうか。文法の学習の時には、子供たちが主体的に取り組めるようにするために日頃悩むところではありますが、東書の文法の教材がデジタルコンテンツに非常に面白いものが付いているので紹介いたします。このように、生徒の興味を引きながら、文法の世界に興味を持たせて、主体的に取り組ませる工夫も新たに加わったところでございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>無回答が多いというのは、意欲の問題より、基礎・基本の未定着の問題のように思えるんです。意欲がないから無回答なのか、本当に基本的なことができていないから、意欲があっても無回答なんではないでしょうか。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>両方ともあると思います。基礎・基本の定着、知識・技能の定着は、思考力・判断力・表現力の中で培うということになっております。東書の226頁に、「学びを支える言葉の力」というのがあります。もちろん、他社もこのような部分は充実しておりますが、東書で少し違うなと思ったところは、知識・技能、学び方、基礎・基本を身に付けるところも生徒のやる気を持たせるような流れになっておりました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>分かりました。他に委員の皆様からあれば、西山委員、どうぞ。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>観点1の「意見文を書く」ところなんです、私は三省堂が一番良いと思ったんですね。その理由は、世の中に出ると難しい問題がたくさんあって、対立意見がある。その中で自分の意見をまとめなければならない。例えば、「原発は賛成だ。」と言うならば、「原発は反対だ。」という人を説得しなければならない。その逆もしかりですね。そのような対立する意見が出てくる中で、自分の意見をまとめるというのが非常に重要なのに、東書は題材が「どちらの写真を選ぶか」となっており、たいして対立が起こりそうもない題材に過ぎないんですよ。「学びの扉」は漫画で、確かに分かりやすく、生徒の興味を引くと思うんですけど、「主人公はドラえもんか、のび太か」はどうでもいいじゃないですか。それに対して三省堂は、優先席という身</p>

	<p>近な問題、様々な意見が出るものを取り上げているところがすばらしいと思ったところです。他の2つの教科書は、「健康で長生きするためには」や「中学生に適した睡眠時間は」ではそんなに、反対意見が出そうにない話題だと思います。そういう意味で私は、対立する意見が出てくるところで、自分の意見をまとめることが大切という考え方に立っているところで、三省堂が一番良いと思ったんですね。他のところでは東書がよいところがたくさんあるのはよく分かりました。悩ましいところなんですけど、観点1についてはどうかと思ったところです。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>私どもも三省堂の「意見文を書く」の単元は、文字量が適切で、また、色分けで「意見・事実・理由付け」を示してあるところが分かりやすく、非常に良いと思いました。東書についてですが、パンダの写真を選ぶような授業は現場でよく行う学習でありまして、「どの写真を選ぶか」という課題は子供たちの対話を引き出せる課題でございます。どちらの写真を選んだ方が、より人に伝わるのかと考えていくことで、生徒の対話を生み出していくいい教材とも思われます。三省堂、東書共に良さを感じたところがございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>この点に関しては、私は別の見方をしたんですけれども、「根拠を示して考えを述べる」という課題ですよね。これに関して、根拠が何であるかを一番はっきり書いてあるのは教出ですよね。教出には、最初に「根拠とは自分の考えを支える事実や事例のことである」と書いてあります。これが分からないと、根拠を示して文章を書くことはできないですよね。これに対して、東書と三省堂には根拠が何か書いていないんです。東書は、長所と短所を書き出す、そして「Aの方が良い」という意見ではAの長所が根拠となる、さらにはBの短所を根拠にすることができるということで、根拠というのは長所と短所のことだと思えるような文章になっていますよね。東書で学ぶと「根拠を明確にして意見を書く」ことが苦手になるのは、確かにそうかと思えました。「根拠を示して意見を書く」ということに特化して選ぶと、光村と教出が一番わかりやすいと思います。なぜかという、自分が作業するときの順番が書いてあるからです。東書には、今言ったように、そもそも根拠が何であるのかが書いてないということと、三省堂は「まずみんな意見交換しましょう」から始まるわけで、それが無いのに、自分の意見を書けない。例えば、いきなりテストで「あなたの意見を書いてください」と言われても書けない。自分一人で、自分の意見を書けるステップになっているのは教出と光村だと思いますね。私にとっては観点1の◎は教出と光村で、先ほど示されたものと逆になると思いました。もし、自分で勉強するのであったら、この2社の方が分かりやすいというのが感想です。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>おっしゃる通りに、教出は「根拠を明確にして書く」ことが解説してあります。おっしゃったように、光村も詳しく書いてあります。おっしゃるように、東書と三省堂は少し曖昧な点があるかもしれません。私ども研究員が重点的に考えた点は、「無回答の子供をどう学びに向かわせるか」という点であります。教出は非常に分かりやすく書いてありますが、解説的なので、読んでも分からない子もいるのではないかと感じました。光村もしかりです。東書はよく見てみますと、107頁のところにある「学びの扉」を見ると、その後に「学びを支える言葉の力」へいくように書いてあります。そして、そのページを見ると234頁に「根拠を挙げて考えを述べる」があり、</p>

	<p>そして根拠とはどういうものかが書いてあります。これをもとに前の活動に戻るといふ仕組みになっております。どの教科書にもそれぞれの良さがあるなと思つたところがございます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>おそらく観点の違いだと思うんですね。無回答の生徒に対して、漫画や動画で興味をひくことが大切だと思われているかもしれないんですけど、本来、基礎・基本を理解する方が大切だと思つているので、その点で皆さんと意見が違うのかなと思つます。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>今の教育長のご意見ですけども、確かに、光村と教出、三省堂と東書はちょっと違うんですね。光村と教出は、自然科学の題材でレポートを書く際に、統計資料を使つて書くという扱い方なんですね。一方、三省堂と東書は、日常の社会に起こる題材を扱つてあるので、どちらを選ぶかというより、自然科学的な根拠と、根拠の扱いが違つているということではないかと感じているところです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>東書の先ほどの235頁を見ると、「自分の考えを述べるときは、どうしてそう考えるのかを説明しよう」ということで、そもそも東書では、根拠というのは事実ではなくて、自分の考えている理由のことを根拠と書いているんですね。それはあまり説得力をもたないので、東書はその点が弱いかなと思つます。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>教育長がおっしゃるように、根拠と理由の違いは国語でしっかり考えることです。どこまでが根拠で、どこまでが理由なのか、非常に悩みながら授業をしているところがございます。おっしゃつたように、理由に近い根拠だと思つております。付け加えます。</p>
<p>沖田史佳 研究記録員</p>	<p>新学習指導要領によると、「書くこと」に関しては、「根拠を明確にして自分の意見を持つ」というのが1年生の目標になっています。2年生になつて「根拠の明確さを考える」、つまり、用いた根拠はこれでよいのかどうかを吟味していくところが出てきます。1年生の段階で、根拠とは何かについて、どこまで授業のねらいとして生徒に求めるかどうか、生徒の実態にも応じながら授業をされているのではないかなと感じているところです。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>少し補足します。新学習指導要領解説の「話すこと・聞くこと」「書くこと」において、「根拠」は1年生と2年生に出てきます。「読むこと」は1年生に出てきます。今、沖田が申しましたように、1年で根拠を明確にし、2年でそれを適切に使えるようにするとなっております。螺旋的に学習していくということです。ただし、教育長がおっしゃつたように、根拠とは何ぞやを私たちが把握しておかなければ、子供達もあいまいなものになつていくと考えさせられました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>なぜそう思うのかは、どこまでいつてもその人の意見であり根拠ではないということを理解できるようになつておればよいと思つます。他にないですか。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>今議論になつている根拠に関しては、東書の「ドラえもん、のび太のどちらが主人公か」という導入は、大変分かりやすいと思つました。子供たち</p>

	<p>が、これが根拠だと気付く上で導入しやすいのは東書かなと思いました。これは別の話になりますが、「話すこと・聞くこと」について抜粋して見せていただいたんですが、今後「対話的」で、「深い学び」を考える時に、「聞く・話す」ことは非常に大切だと思うんですね。学びを深めるために、動画のコンテンツは大切になってくるかと思います。光村はQRコードがついており、すぐに入っている。東書はDマークが付いていますよね。授業を進めていく上で、どちらが進めやすいのかなというのが1つと、具体的にコンテンツを具体的にどう活用されているのかを知りたいので教えてください。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>現在、熊本市の子供たちはタブレットをいつでも使える状態にあります。QRコードに関しては、巻頭、巻末に付いているもの、学習材の途中に付いているものと各社で様々でございます。「話すこと・聞くこと」に関して言えば、実際に話す場面の動画が入っております。どちらがいいかと言いますと、例えば、光村の古典のところ、全てQRコードがついており、すぐに音読が聞けるようになっています。いろいろなお子さんのことを考えますと、古典教材については、その文章の箇所についている方が子供たちは分かりやすいと思います。ちなみに、東書も音読が付いております。光村はそこを読み取るとすぐに聞けるという状態になっています。補足です。</p>
<p>沖田史佳 研究記録員</p>	<p>スピーチやグループディスカッション等の「話すこと・聞くこと」の授業をするにあたって、子供たちはどこをゴールとして目指せばよいのか、具体的な姿をイメージしにくいので、モデル例の提示が必要になってきます。教員がそのモデルとして実際にやってみせるのも限られてまいります。その点で、東書と光村に関しましては、実際に中学生が話している動画がモデル例として入っておりました。そこで、動画を途中で止めながら、指導者は指導もできますし、子ども達も確認作業ができるのではないかなと思っています。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>今の説明が、スライドで示してある「活動動画」にあたるんですか。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>ちょっと動画を出させていただきます。 すいません、短くて申し訳ございませんが、このようなものが入っております。以上です。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>数では、教出が一番多いようですが、他と何が違うのでしょうか。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>教出はワークシート類がとても充実していて、いろんなワークシートが付いております。ジグソー学習やワールドカフェの仕方の動画もありました。ただ、全体的にはワークシートが多く挙げられていて、教師が作るプリントとあまり変わらないなど。教師にとってはありがたい。しかし、生徒はどうだろうと思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>デジタルコンテンツといっても紙、プリントであるということですね。他によろしかったですか。 泉委員どうぞ。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>観点2の「視点を変えて考える」という題材を見比べてみましたけれど</p>

	<p>も、視点を変えて書いてあることを理解するという点と、異なる人の視点から見た心情を考えるという点の学習だと思うんですけど、その場合、他の人の心情になって文を書いてみようというところまで踏みこんでいるのが東書と光村なんですけれども、さらに、光村を見ていただくと、エーミールの気持ちで書いてあるところがあり、母の気持ちがほとんど語られてなくて、「母」という3人目を出して読み方を深めようという工夫がとてもされているなというふうに思いました。熊本の子どもたちの課題は、もっと基本的なところが課題であることを考えないといけないんですが、物語を読み深めるという点では光村は良くできているなと思いました。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>確かに、光村の「母の視点から見てみよう」というのは非常に面白い取り組みだと思います。東書が他社と少し変わっているなと思ったのは、途中で書いてあるモデル例について、「続きを書いてみよう」という課題でございます。視点を変えて書くのは大切なことですが、なかなか書けない、無回答である子どもに対して、泉委員がおっしゃったように、視点を変えて書くというのは大切なことなんです、「どう書けばいいんですか。」「何から始めたらいいんですか。」というところから入ります。まず続きを書き、そして、その後、『母』についても書いてみようかという流れになるのではないかなというこのような手立てが、熊本市の子どもの実態に合っているのではないかなと判断いたしました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>西山委員どうぞ。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>関連してですけど、この題材でいくと私も泉委員が言われた光村が良いと思うんですね。途中で語り手が変わることに、子どもたちが気付くようにしてある展開が素晴らしいと思うんですね。最初、問題にした観点1に関して、光村は自然科学的なレポートの書き方という点でよくできている。トータルで見ると、私は三省堂か光村図書が良いという気がするんですけども。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>今、西山委員がおっしゃたように、光村の212頁に「学習の窓」があり、光村の優れているところがございます。ここで図化して、語り手が変わることを説明してあります。また、教科書の後ろに「学習の窓一覧」が見開きで示してあり、私これ欲しいなと思うくらい大変良くできています。しかし、これを生徒目線で見られた時に、国語に興味がある人にとってはすごいと思うんですけど、子どもがじっくり読んで本当に分かるだろうかという懸念もありました。以上です。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>私も、東書は、一番苦手なお子さんが入りやすい、優しい教科書だと思います。ただ、教科書を見てみると、考えるというか思考という点では光村の方が丁寧だと思いました。国語の中で、「学ぶ」ということを考えることとか、自分の意見をまとめる力をこれから付けていくことを考えると、子どもさん達の力の違いはあるかと思えますけれども、ここで学ぶ必要があると思うので、思考を学びの核にしている光村がとても良いと感じました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>何かコメントはありますか。</p>
<p>桃崎佐知子 研究員代表</p>	<p>光村はご指摘の通り、非常に優れております。百科事典的で、私も持って</p>

表	<p>帰りたいといったのはそのようなところでございます。どこを見ても、調べて分かるようになってきている。ただ、それをどのように授業に具現化していくか、子どもたちを主体的にいざなっていくか、学びに向かわせるかといった時にもう少し光村の素晴らしさをさらに分かりやすく、例えば1ページの文字数が非常に多いとか、そういう点を改善していただくと、さらに分かりやすく素晴らしい教科書になるのではないかと思います。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>全体的に話を聞いていると、「熊本の子どもは、そんなに国語に興味がなく、嫌いで、見向きもしないような感じだから、だったら漫画や動画で興味を引いて一番簡単な教科書で教えたい」というようにおっしゃっているように聞こえるんですね。もし、そうだとすると、それは教科書に原因があるのではなく、教員の力不足ではないかと思うんですね。それは、子どもにとって不幸なことだと思うんです。みんな、勉強できないから簡単な教科書でいいですという、そういう考えだといつまでたってもできるようにならないので、みなさんの考え自体を変えていただいた方がいいのではないかと思います。</p>
桃崎佐知子 研究員代表	<p>ありがとうございます。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>コメントは不要です。 他に意見はありませんか。なければ、「国語」は以上で終わります。</p>
岩本晃代 選定委員長	<p>続いて、「書写」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。</p> <p>《寺前研太郎 研究記録員 説明》</p>
岩本晃代 選定委員長	<p>次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。</p> <p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
岩本晃代 選定委員長	<p>ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議しました結果、内容は妥当であると判断いたしました。</p>
遠藤洋路 教育長	<p>では、協議に入ります。最初に、私から伺いたいのですが、教科書のサイズが2種類ありますね。教科書展示会の意見にもあったように、東書と教出が正方形、光村と三省堂が少し横長で違いますよね。意見には使いやすい、使いにくいと両方の意見が出ていましたけれども、そこはどうお考えでしょうか。</p>
田尻博道 研究員代表	<p>教科書のサイズですが、机の上どうしても手本を置く関係で、ある程度の大きさは必要なんですけれども、できるだけ小さい方が良いということと、サイズもですが教科書の重さの面というのがありまして、今、非常に良い紙を使ってあるんですけれども、子ども達が背負って登下校する場合もありますので、そういった部分からいうとやはり、書写であれば、ある程度小さい方が良いのではないかと思います。</p>

遠藤洋路 教育長	書写の教科書というのは、毎日持って帰るものなんですか。
田尻博道 研究員代表	普通、置かせてあります。
遠藤洋路 教育長	では、持ち帰りは関係ないということですか。
田尻博道 研究員代表	そうですね。ただ、家庭で取り組むこともあるかもしれません。
遠藤洋路 教育長	他にご意見、ご質問ありましたらお願いします。
西山忠男 委員	私も光村が一番良いのではないかと思います。毛筆の説明が丁寧であり、穂先の動きがよく分かる。朱書が良い。そういうところが良いと思ったのと、今日の説明にはなかったんですけど、「日常に役立つ書式」の110頁からあるところの手紙の書き方についても、非常に見やすく丁寧だなと思ったので、光村が良いかなと思いました。
遠藤洋路 教育長	他にありませんか。
小屋松徹彦 委員	小さいことですが、光村だけが仮名や数字、アルファベットが書いてあるんですが、これは授業で使うことがあるんでしょうか。
田尻博道 研究員代表	仮名はもちろん使いますが、数字やアルファベットをとりたてて扱うことはないと思うんですが、おそらく、他教科との関連で示しているのではないかなと思います。子ども達の字が乱れておりますので、意識付けという点では良いかなと思います。
遠藤洋路 教育長	他に意見はありませんか。なければ、以上で「書写」については終了します。
岩本晃代 選定委員長	続いて、「地図」の教科書の調査結果について、研究員代表が説明いたします。
	《藤本裕人 研究記録員 説明》
岩本晃代 選定委員長	次に教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。
	《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》
岩本晃代 選定委員長	ただ今の報告について、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断いたしました。
遠藤洋路 教育長	では、「地図」について協議に入ります。ご意見・ご質問はありませんか。
西山忠男 委員	両社とも、図法についての説明が全くないということです。帝国の31頁、確かに面白い地図なんですけど、ひっくり返してみると日本列島の形がひずんでいるということに気付くと思うんですね。図法にそれぞれ特徴

	<p>があって、面積を正しく表すなど図法の違いをちゃんと説明しないといけないのに、どちらにもない。それが不満です。家に帰り、高等学校用の地図を見たら、それにはちゃんと載ってるんです。ランブルト正距方位図法は面積が正しく表示されるなど、全部、説明が載っているんです。中学校の教科書になぜ説明されていないのか。それが不満です。教師の方で補完していただきたいと思います。</p>
	<p>両社の比較について、例えば世界の地形について、帝国9頁、東書15頁ですね。ここを見ますと、海底の地形の中に海底大山脈があるんですが、この特徴が帝国の方が非常に分かりやすくて、海底大山脈が地球上を覆っているという、非常に重要な地球学的な特徴が分かるようになっています。東書は書いてあるが見つらい。次に、アジア州について見てみると、東書29頁、帝国は19頁であるが、大きな違いがあって、東書は南極から俯瞰した図、帝国はまさにアジア州だけ取り上げて描いてある。どちらが良いかは考え次第ですが、より詳細に見ることができるのは帝国であると感じています。全体的に見ると、版が大きい分だけ、帝国が見やすいのが事実でこちらの方が使いやすいという印象がしています。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>教科書展示会の意見だと、東書は大きい、帝国は重いとあります。大きさについての考えは、どうですか。</p>
<p>田中豊造 研究員代表</p>	<p>持ち運びが大変なので、重さが一番影響すると思います。帝国は、大きくなった分だけ、一つ一つの示したいものが大きく、鮮明に掲載されていると思います。また、それぞれの地域のつながりや接続の部分まで掲載でき、それがメリットであります。帝国は机の上に広げるとき、本の位置を、そのままめくっていけるように、上が北にくるようにされているので、子どもたちにとって利用度が高いと思われます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>帝国も九州はたて向きであるようですが、それが帝国は少ないということですか。</p>
<p>田中豊造 研究員代表</p>	<p>はい。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>九州の地図を比較してみても、見やすさという点では帝国かなと思います。東書は、九州の地図にある鹿児島県や長崎県は、配置がおかしいですよ。気になりましたけれども、そういう点で、帝国が良いかなと思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>私も、各地域、全部同じ順番で一般図や鳥瞰図が出てきているのは良いと思います。小屋松委員からもありましたが、九州でいうと下にある島しょ部が、確かに帝国は対馬、五島列島、大隅ですが、東書は、種子島、五島列島、対馬、屋久島ですよ。普通だったら逆で、種子島と屋久島だと思うのですが、考え方、統一感が東書はあまりないと思いますが。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>東書の106頁、帝国の98頁、近畿地方を開けてみると違うんですね。果樹園が帝国にはピンクで示されていますが、東書は入ってないんですが、縮尺が関係するんですか。102頁の中国・四国地方、大きい縮尺には入っていて、もう一つ手前の100頁にある中国・四国地方は果樹園が入っていないんです。見比べると、果樹園の記載があるかないかで色合いが違い、</p>

	<p>混乱するのではないかと。こういう得意ではない人間が見たら、混乱するのではないかと思ったんですが、どのように分けてあるのか教えてほしいと思います。</p>
<p>田中豊造 研究員代表</p>	<p>縮尺が大きいほど、示したい範囲が大きくなりなります。縮尺の大小で果樹園の範囲を表示できる場合と、そうでない場合があります。果樹の種類を考えながら、その範囲を果樹園とする、しないかは出版社の方針があります。この程度の果樹の量だったら果樹園としない。果樹の分布でよければ、リンゴやミカンのイラストを載せてあるのではないかと思います。果樹のことを質問されましたが、魚とか水産物とかについても両社とも種類の違うものが載っております。そういうところからも両出版社が載せたいものを、どの範囲で載せるかを決定して、示してあると考えています。</p>
<p>泉薫子 委員</p>	<p>授業では、果樹園の勉強もするものですか。</p>
<p>田中豊造 研究員代表</p>	<p>はい、そうです。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>東書は、果樹園に関しては、例えば、105～106頁を見ると、このサイズの図には載っていないですね。次の、やや拡大したページには載っています。つまり、東書は、その地方の大きい図には載っておらず、そこを拡大したものには載っているということかなと思います。帝国は、一番大きい図にも載っています。東書は、最初にしか果樹園が書かれてませんが、毎回見るかどうかは分からないですね。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>ヨーロッパの鳥瞰図ですが、東書は数が少ないですね。海底について、東書の方がきちんと書いてあるようです。地図を見るときに、想像ができてこの表現は好ましいと思います。帝国では海が一色であり、海底まで書いてあると想像が膨らむ。そういった点では評価できると思います。全部にはなかったので残念だと思いました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>海底の地形について授業では扱うのですか。</p>
<p>田中豊造 研究員代表</p>	<p>内容的には、理科との関連があると思います。地図としては、表面では見えにくい海底の地形を大きく捉える、触れるところの学習に関連する部分ではないかと思われます。地震の発生も含め、全体を大きく眺めてみる、海で見えない海底の部分が、こういう風になっているというように。海底の様子が分かるものがないよりもあった方が良くと思います。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>海底について、例えばアジアの30～31頁、ヨーロッパの49～50頁で見比べると、サイズが違うからかもしれませんが、ヨーロッパの方が海が深く山が高く、アジアは平坦になってますよね。実際は、地中海より太平洋が深い。これでは、地中海がものすごく深く見える。そのへんも、イメージは分かりますが、厳密な同じ比較にはなっていないと思うんですね。 全体として東書はメリハリがありますが、同じ観点で記述してない。帝国は徹底して記述されている。好みの問題かもしれませんが、地図の意義を考えると、どこも同じが良いと思います。</p>

遠藤洋路 教育長	他に意見はありませんか。ないようですので、以上で「地図」について終了します。
岩本晃代選定委員長	<p>続きまして、「美術」の教科書の調査結果について、研究員の代表がご説明いたします。</p> <p>《古閑敏之 研究記録員 説明》</p>
岩本晃代選定委員長	<p>次に、教科書展示会の意見集約の結果報告を事務局が説明いたします。</p> <p>《廣瀬泰幸 教育センター副所長 説明》</p>
岩本晃代選定委員長	ただ今の報告につきまして、事前に選定委員会にて調査報告を審議した結果、内容は妥当であると判断いたしました。以上です。
遠藤洋路 教育長	では、協議に入ります。ご意見・ご質問がありましたらお願いします。
西山忠男 委員	2番目の観点についてお尋ねしたいのですが、開隆堂だとゴッホの自画像を並べて比較している。これは理解できるのですが、光村は北斎とゴッホを比較していますよね。具体的に、この2枚の絵を見比べて、どこがどのように影響を受けているのか全く読み取れない。絵そのものがどう影響を与えているのか、生徒が理解できないのではないと思うのです。日文のゴッホとモネの比較、これから何を読み取ればいいのか、自分は理解できない。どうなのでしょうね。そういう意味では開隆堂のゴッホを見比べる方が妥当だと感じたのですが、いかがでしょうか。
平木美和 研究員代表	確かに、光村の作品を見比べるためには、途中の説明がいるのではないかと思います。日文では、この時代、写真ができたことで画家たちの絵画でしか表せないものを描こうというチャレンジにあふれており、多彩な表現にあふれていたという点を載せたいという意気込みが出ています。ゴッホにしてもモネにしても、色彩やタッチでそれらを表現しています。ゴッホやモネだけでなくマネ達のような、その後出てくる画家たちにも生徒の目を向けさせたいという思いが日文にはあったと思われま。原寸大のものを載せることによって、作家たちがなぜチャレンジしたのかに気付かせ、最後に岡本太郎の表現者としての思いが出てくるので、構成としては、よいと思われました。
西山忠男 委員	今の日文ですけれども、部分的に取り出してあります。だから、ここだけ見ても、感動もイメージも沸かないのですよね。全体の図をもう少し大きく示してもらわないと、日の出のところだけ取り上げて原寸大にしても、鑑賞にならないという気がするのですよね。この意図が何なのか理解できないのですけれど。
平木美和 研究員代表	日文は1年生の段階で、表現、鑑賞といった題材で勉強してきています。表現をする場面では、色で感情を表したり、構図で表したりしていきます。日文の1年18、19頁をご覧ください。1年生のうちに基本的な平面、立体表現で人のしぐさを色、タッチ等で表現していく良さがあり、色彩にお

<p>西山忠男 委員</p>	<p>いては暖色系、寒色系などの学習をしていきます。19頁で構図を学び、そのような基本ベースがあったうえで学んでいくようになっており、子どもたちにとって、こういう新たな切込みも刺激があつていいと思われま</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>私は美術について詳しくないので、自分が理解できないことを尋ねている全体的にどの教科書も違いはないような気がしているのですが、観点2については開隆堂が優れているという印象をもちました。</p>
<p>平木美和 研究員代表</p>	<p>西山委員の意見に関連しているのですが、日文の表紙がよい。一番かっこよく、美術の雑誌のようですね。色も日文が一番鮮やかで、比較すると北斎の富嶽三十六景を並べて置いたら、日文が圧倒的にきれいですよね。色鮮やかで迫ってくる感じがあつて、開隆堂は小さいのですよね。1年という、風神雷神では、光村が大きいですが、日文の方が色鮮やかである。どれに関しても、日文の方が、色がいい。西山委員がおっしゃっていたゴッホのところも、筆遣いがわかってリアリティがある。日文は実物の質感が感じられていい。印刷の発色の問題かもしれないが、そう思ったところです。開隆堂は全体的に迫力不足、光村は色の発色が今一つだと感じます。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>ゴッホは黄色にこだわりがあつて、「ひまわり」、「種まく人」など。モネは印象派が始まったきっかけになつたわけで、寒色系に暖色系を入れると、場面が引き立ちます。実際に、作品の中の朱色を隠すと寂しいが、暖色系を入れることで画面は引き立っています。後期印象派に分類されるセザンヌは、色彩や構図を工夫しました。1枚の絵の中に、多視点で見たものを組み合わせ合わせて描いており、色彩でバランスを保ちながら今にも動き出しそうな面白さを出しています。そういう再構成していることなどをピカソは学んだと言えます。そういう意味で、セザンヌの絵は大きな流れの中での起点になつていて、美術史の中では押さえておいてほしい作品です。</p>
<p>西山忠男 委員</p>	<p>それぞれの作品の意義は良くわかるのですよ。モネの絵は全体像で見るとわかるが、ゴッホの筆遣いがわかるという意味でここに載せていることに意味がある。モネのその部分だけのせている、そこだけ取り出すという点では意味があるのかという視点で言いました。</p>
<p>平木美和 研究員代表</p>	<p>まったく同じ意見で、油絵を学ぶのであれば、タッチを見るというところに意味があるのだろうが、油絵は行わないわけで。鑑賞は全体の中にあつてはじめてその意味が分かるもの、そういう意味で、この教材の出し方は納得がいかない。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>今後の研鑽に役立てたいと思います。水彩画の方が油絵よりも難しいです。画用紙が白色であるならば、それを1色として考えて色を置いていくわけですね。しかし油絵は塗料を削ったり重ねたりしながらダイレクトに表現できるよさがあります。油絵具は高いので、今は、アクリル絵の具と組み合わせながら、油絵に似た水彩画が出ています。油絵に劣らないような迫力のある水彩画が全国的にも展示されています。</p>
<p>出川聖尚子 委員</p>	<p>質問ですが、生徒が表現する視点で見た時に、こういう使い方がいいというのはあるのでしょうか。美術では生徒が書いたり作ったりという点にも時間が使われると思うのですが、各教科書の工夫点があ</p>

		ば教えてください。
平木美和	研究員代表	光村の、作品の途中経過を載せてあるのはいいと思いました。下描きはいいが彩色で失敗したという生徒の声をよく聞きます。光村の24頁は、水彩画の制作過程が載せられていて、そこに彩色の経過がわかるような教科書作りがされていて丁寧でなと思いました。他の社も、生徒の作品とか、目標にマッチした作者の言葉とかが載せてあって素晴らしいと思います。より深い学びをさせる上で、目標と造形的な視点、作者の感想、そのような一連の動きがよかったのが日文ではないかと思ったわけでありませう。
遠藤洋路	教育長	展示会の意見に、学校の意見で副教材や資料集がなくても対応できるという意見があったのですが、資料集や副教材はどういうものを使っているのか教えてください。
平木美和	研究員代表	以前は、中学校では美術資料を研究会の意見を入れながら作っていたものがありました。各教科書会社が出しているものを以前は使っていたりもしたのですが、この頃は必ずしも使われていない状況があるようです。
遠藤洋路	教育長	日文には確かに必要ないと思いました。お金の節約にもなってよいと思ったものだから。
平木美和	研究員代表	資料は確かに要らなくなりました。どの教科書も巻末に補充を入れてあるのでその点はよいと思います。
遠藤洋路	教育長	資料集が別にあるのなら、教科書はあれこれ考えなくてもいいのではないかなとも思うのだけれども。誰か分かる人は、いませんか。
平木美和	研究員代表	資料集は作品数が多く、解説が多いということはありません。
松島孝司	学校教育部長	事務局から申し上げます。昨年度の学校訪問の印象なのですが、鑑賞の授業を見ることが多かったのですが、資料集を使っている場面はあまり見られませんでした。大型の電子黒板に出されていることが多かったという印象があります。
遠藤洋路	教育長	分かりました。
泉薫子	委員	感想なのですが、今回の教科書は、学習の目標がきちんと提示してあって、この単元でどの力を身につけたらいいかというのが非常に分かりやすかった。単元の目標の内容を見ると、どれも内容と資料がよくできているなと思います。日文はよく工夫されていると感じました。
遠藤洋路	教育長	熊本に関する教材を教えてください。
古閑敏之	研究記録員	開隆堂は、熊本城の鯨の修復、山鹿灯籠など3点。光村は、みずあかり、西原村小森第2のみんなの家など4点。日文は、くまもと農畜産物統一ブランドマーク、九州新幹線など3点。日文も熊本のいぐさが使われています。光村は題材の参考資料になっており、日文は題材そのものになっているため、光村と日文が頑張っているのではないかと調査をして感じました。

<p>平木美和 研究員代表</p>	<p>光村が西原村の「小森第2のみんなの家」を引用されていますが、災害に見舞われた地域でも、心休まる場所で復興を願うというものを取り上げており、設計士のメンバーが取り組んでいるものを引用しています。日文も、2・3下の46、47頁、水戸岡鋭治さんのデザインで、熊本市も「COCORO」という市電を熊本城の壁のこげ茶をイメージしてつくられました。JR九州が地域に貢献するということで、新しい発想で観光列車「つばめ」をつくられたというのが、大変分かりやすく説明されていました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>九州新幹線は熊本のものというわけではなく、九州全体のものではないかと思うのですけれども。</p>
<p>小屋松徹彦 委員</p>	<p>感想ですけれども、1年になって今から美術を学ぶ時に使うであろう最初の部分を見てみました。開隆堂は「学びの地図、」光村は「美術って何だろう」、日文は「学校美術の世界へようこそ」とありました。その中で、日文の表現が一番分かりやすい。3段階に分かれている。3冊に分かれている日文のつくりがそのように3段階で作られているということも納得がきました。</p>
<p>遠藤洋路 教育長</p>	<p>他に意見はないでしょうか。ないようですので、以上で「美術」について終わります。 以上で本日の協議を終了します。</p>